米国経済・金融概況
（2026年9月）

2026年9月30日

経営企画部経済調査室（ニューヨーク）

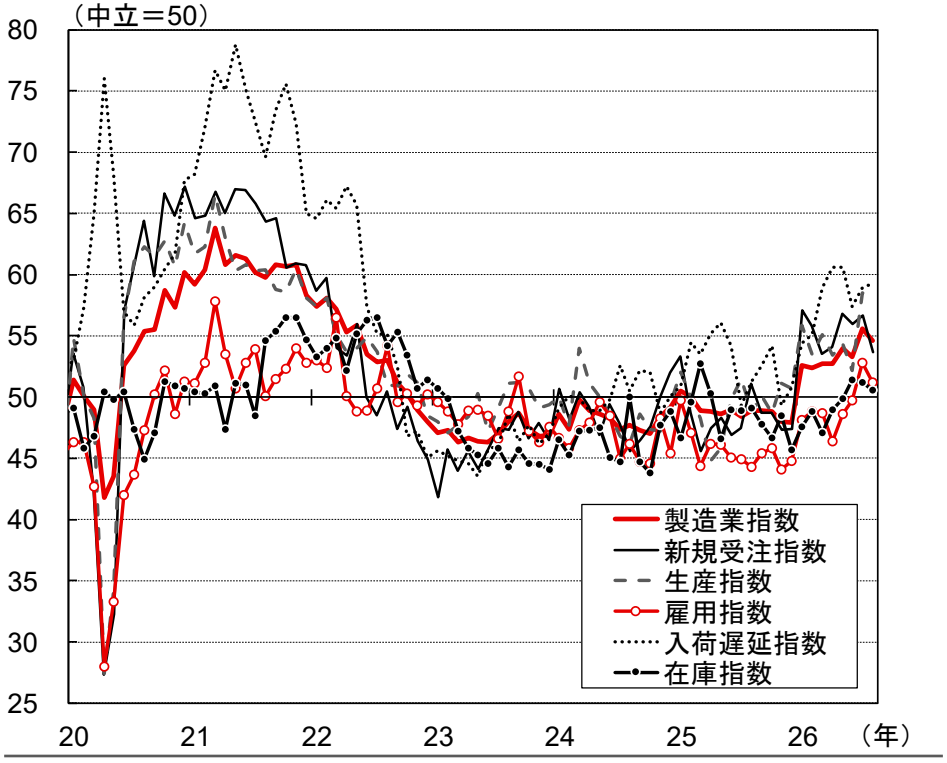
三菱UFJ銀行

MUFG

1. 企業活動 ①

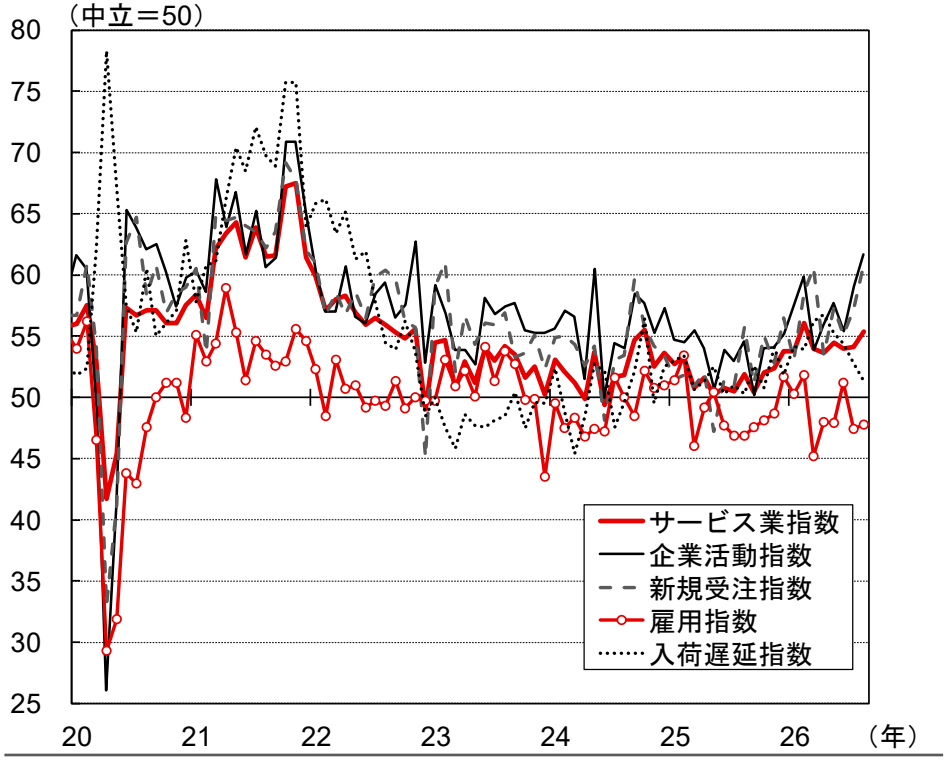
- 製造業の景況感・活動状況を表すISM製造業指数（総合）は8月に54.6（前月比▲1.0ポイント）と低下。指数の構成項目をみると、新規受注（53.7、同▲3.0ポイント）、雇用（51.2、同▲1.6ポイント）、在庫（50.6、同▲0.6ポイント）、生産（58.3、同▲0.2ポイント）が低下。価格は71.1と前月から横這い。産業別では全18産業のうち15産業が拡大、2産業が縮小、1産業が横這いを報告（7月は15産業が拡大、1産業が縮小、2産業が横這い）。
- 8月のISMサービス業指数（総合）は55.4（前月比＋1.3ポイント）と2ヵ月連続で上昇。入荷遅延（51.3、同▲1.5ポイント）は低下した一方、新規受注（60.9、同＋3.7ポイント）、企業活動（61.7、同＋2.6ポイント）、雇用（47.8、同＋0.4ポイント）が上昇。価格は72.6（同＋2.3ポイント）と上昇し、石油関連製品、ディーゼル、ガソリンは8月に再び価格上昇が報告されたとISMは指摘。産業別では全18産業のうち12産業が拡大、5産業が縮小、1産業が横這いを報告（7月は15産業が拡大、2産業が縮小、1産業が横這い）。

ISM製造業指数の推移



（資料）ISM（全米供給管理協会）統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の推移



（資料）ISM（全米供給管理協会）統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

2. 企業活動 ②

ISM製造業指数の産業別活動判断

	繊維製品	木製品	その他製品	印刷等	家具等	コンピュータ・電子製品	機械	電気機器	衣類・皮革等	非金属鉱物	石油・石炭製品	紙製品	輸送用機器	プラスティック・ゴム製品	金属製品	食品・飲料等	一次金属	化学製品
2025/1	○	×	×	-	×	×	○	○	-	×	○	×	○	○	×	×	○	○
2025/2	×	○	○	-	×	×	×	○	-	×	○	-	○	○	○	○	○	○
2025/3	○	×	○	-	×	○	×	○	-	○	○	×	○	×	○	×	○	×
2025/4	○	×	○	-	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○
2025/5	-	×	-	×	○	-	○	○	-	○	○	×	×	○	○	×	×	×
2025/6	×	×	○	-	○	○	○	○	○	○	○	×	×	-	×	○	-	×
2025/7	○	×	○	×	○	×	×	×	○	○	-	×	×	○	×	×	○	×
2025/8	○	×	○	-	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×
2025/9	○	×	○	-	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	○	-	○	×
2025/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	○	○	○	○	○	×
2025/11	×	×	○	-	×	○	○	-	×	×	×	×	×	×	×	○	-	×
2025/12	×	×	×	×	-	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
2026/1	×	×	×	○	×	○	○	×	○	×	×	-	○	×	○	○	○	○
2026/2	○	×	○	○	×	○	○	○	×	○	×	-	○	○	○	×	○	○
2026/3	○	○	○	○	×	○	○	○	-	○	-	○	○	×	○	×	○	○
2026/4	○	×	○	-	○	○	○	○	-	○	×	○	○	○	○	×	○	○
2026/5	○	×	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2026/6	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○	○
2026/7	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	-	○	○	○	○	○	×
2026/8	○	×	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	×

（注）『○』は前月から活動が拡大、『×』は縮小。
（資料）ISM（全米供給管理協会）統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

ISMサービス業指数の産業別活動判断

	金融・保険	不動産・レンタル・リース	公益	小売	情報	建設	農業・林業・漁業	医療・社会扶助	企業管理・サポート	行政	鉱業	教育サービス	卸売	その他サービス	芸術・娯楽・レクリエーション	宿泊・飲食サービス	輸送・倉庫	専門・科学・技術サービス
2025/1	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	-	○	○	×
2025/2	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	-	○	○	○
2025/3	○	○	○	○	×	○	○	×	×	○	-	×	○	×	×	○	○	×
2025/4	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	○	○	○	-	○	○	○	×
2025/5	×	○	○	×	○	×	×	○	×	○	○	○	×	×	○	○	×	○
2025/6	-	○	○	○	○	×	×	×	○	○	×	×	○	○	○	-	○	×
2025/7	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×	○	○	×	×	○	×
2025/8	-	○	○	○	○	×	-	○	×	○	○	○	○	×	○	×	○	○
2025/9	○	×	○	×	○	×	×	○	×	○	×	○	○	○	-	○	○	×
2025/10	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	-	○	○	×	×	○	○	○
2025/11	○	×	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	-	○	○	×	○
2025/12	○	-	○	○	○	×	×	○	×	○	○	×	○	-	○	○	○	×
2026/1	○	○	○	○	○	○	-	○	×	○	-	○	×	×	×	○	×	○
2026/2	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	-	×	○	×	○
2026/3	○	○	○	×	○	○	×	-	○	×	○	○	○	○	-	○	○	○
2026/4	○	×	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	-	○	○	○
2026/5	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2026/6	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○
2026/7	○	×	○	○	○	○	-	×	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○
2026/8	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	-	○	○	○	○

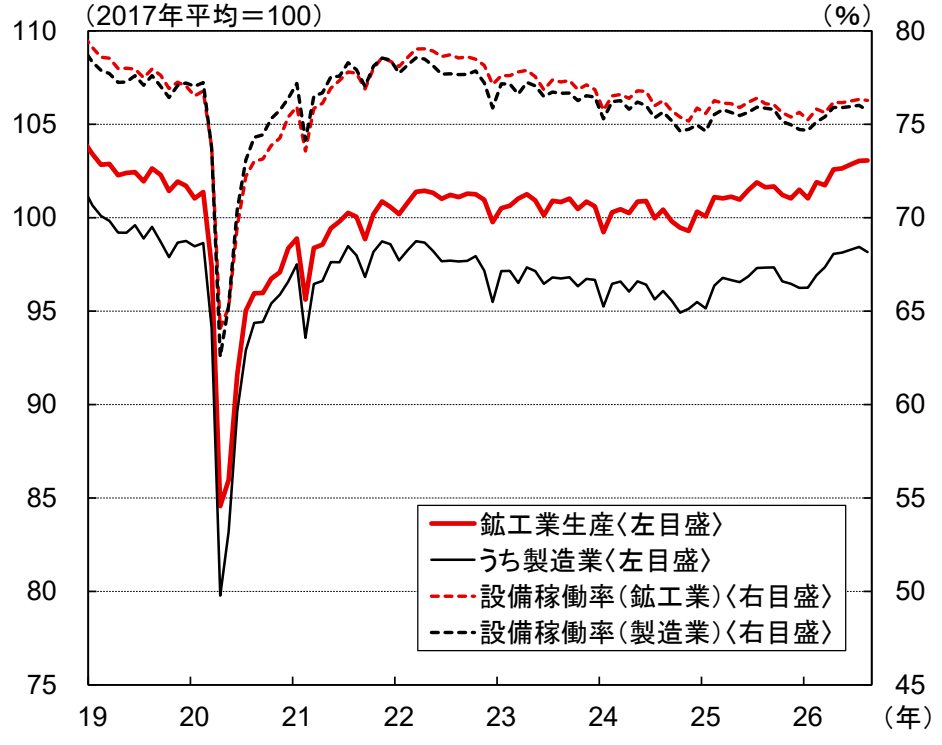
（注）『○』は前月から活動が拡大、『×』は縮小。
（資料）ISM（全米供給管理協会）統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

MUFG

3. 生産

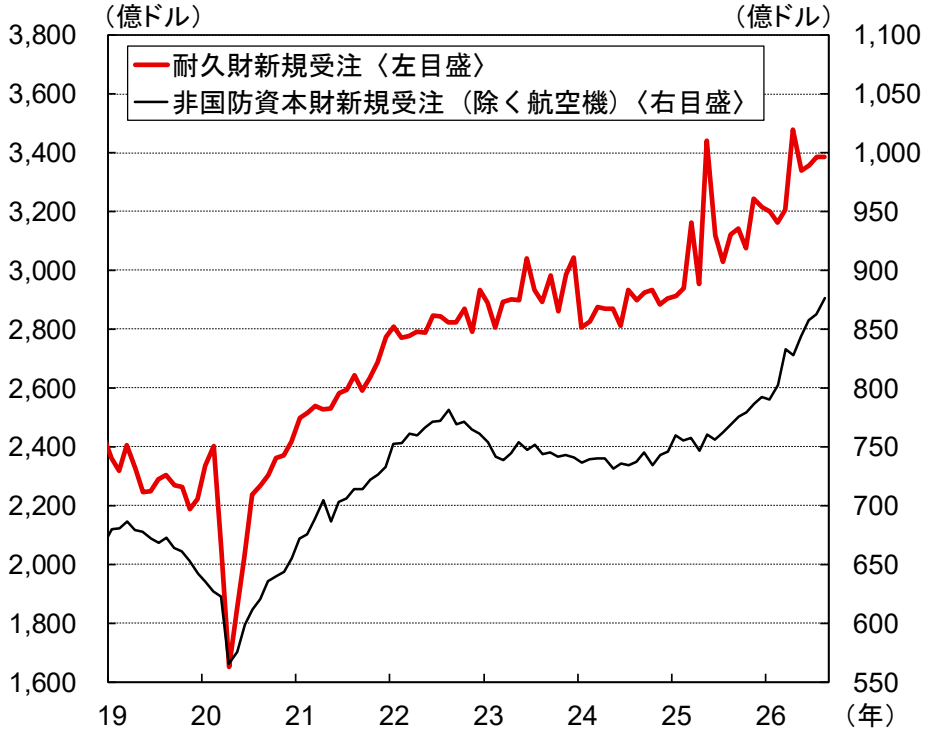
- 8月の鉱工業生産は前月比＋0.0%と横這い。産業別では、全体の約7割を占める「製造業」が同▲0.3%と減少。内訳をみると、「機械」（同＋0.5%）は増加した一方、「自動車・同部品」（同▲1.2%）、「コンピュータ・電子製品」（同▲0.5%）、「一次金属」（同▲0.3%）は減少。「鉱業」は同＋0.1%、「公益事業（電気・ガス）」は同＋1.8%とそれぞれ増加。8月の設備稼働率は76.3%（前月比▲0.1%ポイント）、うち「製造業」は75.7%（同▲0.3%ポイント）とそれぞれ減少。
- 8月の耐久財受注は前月比＋0.0%と伸びは横這い。内訳をみると、「金属製品」（同▲1.3%）、「輸送用機器」（同▲0.6%）は減少した一方、「一次金属」（同＋1.2%）、「機械」（同＋1.1%）、「電気機器・家電」（同＋1.1%）は増加。設備投資の先行指標であるコア資本財受注（非国防資本財受注、除く航空機）は同＋1.6%と4ヵ月連続で増加。

鉱工業生産と設備稼働率の推移



（資料）FRB統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

耐久財受注の推移

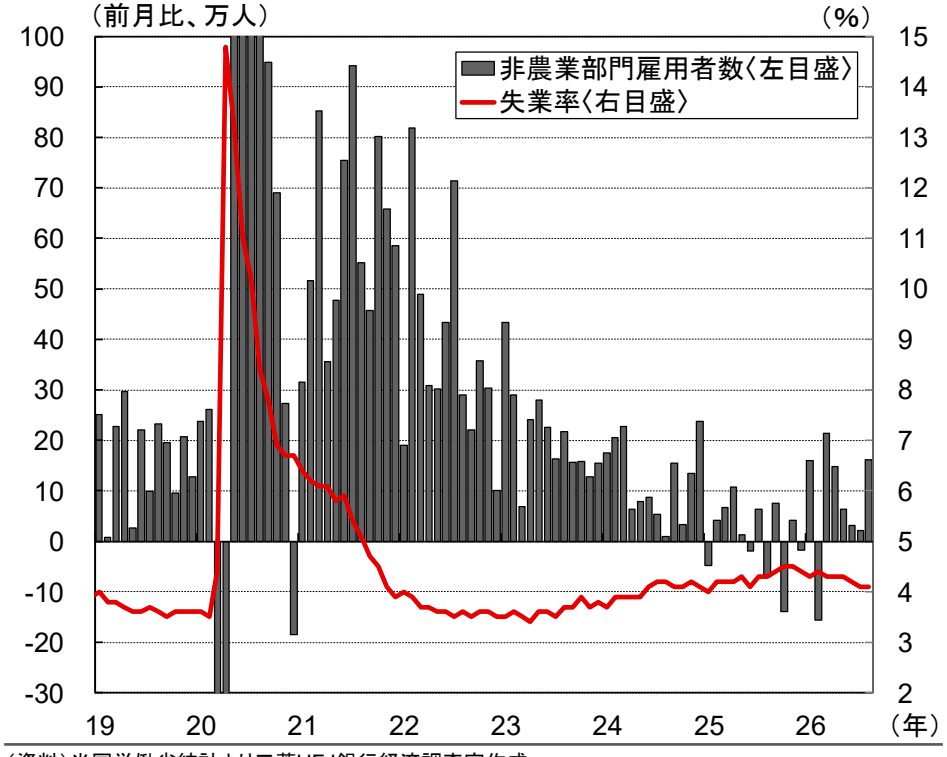


（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

4. 雇用

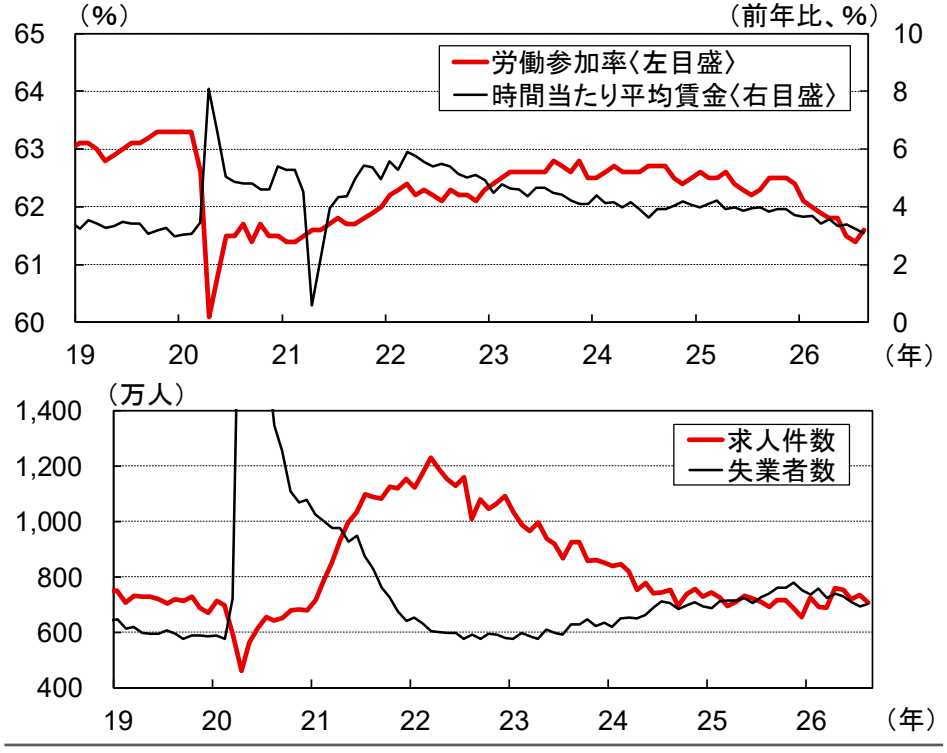
- 雇用者数は予想を大幅に上回り、労働市場の持ち直しを示唆。
- 8月の非農業部門雇用者数は前月比＋16.2万人（7月：同＋2.1万人、改定値）と、市場予想（Bloomberg集計：同＋5.5万人）を大幅に上回る伸び。業種別にみると、「レジャー・接客」（同＋6.2万人）が大幅に増加したほか、「医療・社会扶助」（同＋2.8万人）、「政府」（同＋3.5万人）、「建設業」（同＋2.2万人）、「製造業」（同＋1.6万人）等が増加。
- 8月の失業率は4.1%と前月から横這い、労働参加率は61.6%（前月差＋0.2%ポイント）と上昇。時間当たり平均賃金（民間部門）は前年比＋3.1%と前月（同＋3.2%）から減速。
- 8月の求人件数は707.9万件（前月比▲25.6万件）と減少。求人件数を失業者数で割った求人倍率は1.01倍（前月：1.06倍）と5ヵ月連続で1倍を上回った。

非農業部門雇用者数・失業率の推移



（資料）米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

労働参加率・平均賃金・求人件数・失業者数の推移



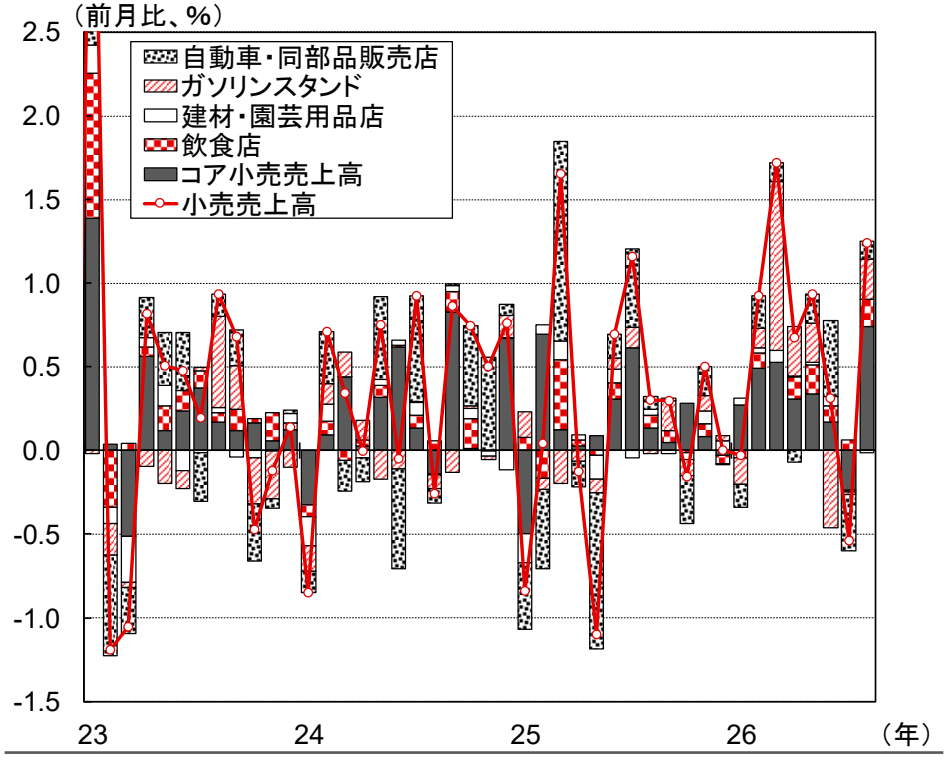
（資料）米国労働省より三菱UFJ銀行経済調査室作成

MUFG

5. 個人消費

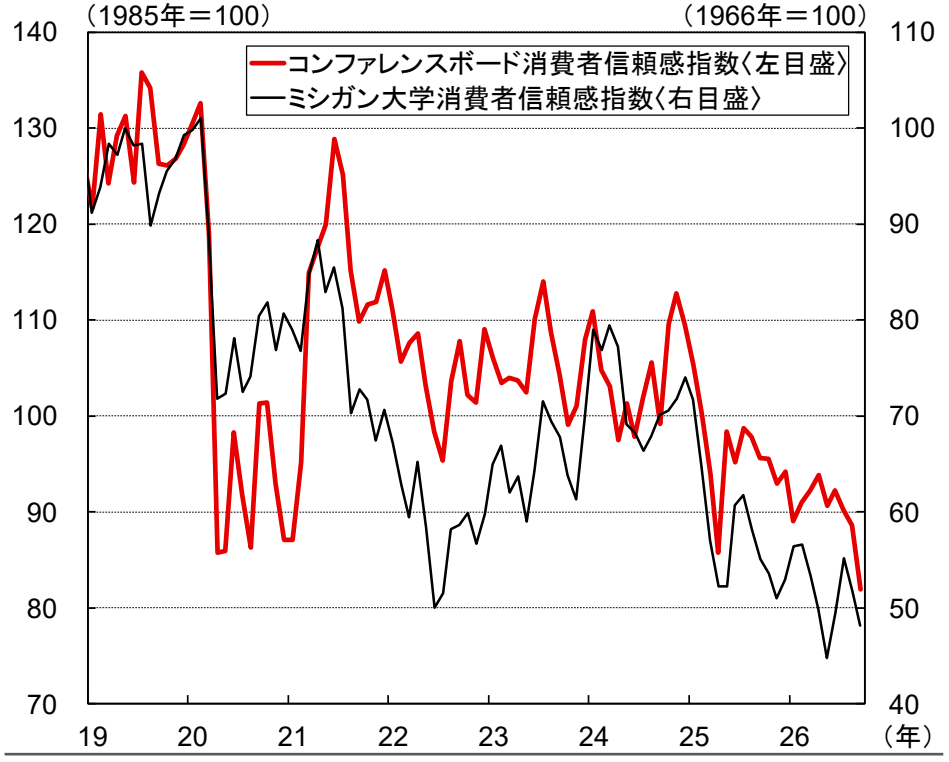
- 小売売上高は7月の落ち込みから回復し、市場予想を上回った。インフレ懸念が続く中でも、米国の消費は底堅さを維持。
- 8月の小売売上高は前月比＋1.2%（前月：同▲0.5%）、コア売上高（自動車、ガソリン、建設資材、食品サービスを除く）は同＋1.4%（前月：同▲0.4%）とそれぞれ増加。業種別にみると、燃料価格の高騰の影響により「ガソリンスタンド」（同＋3.1%）が大幅に増加したほか、「無店舗小売店」（同＋2.6%）、「電子機器・家電販売店」（同＋1.6%）、「飲食店」（同＋1.2%）、「家具販売店」（同＋0.9%）、「衣料品販売店」（同＋0.7%）等が増加。
- 9月のミシガン大学消費者信頼感指数は48.1（前月比▲3.6ポイント）、コンファレンスボード消費者信頼感指数は81.9（同▲6.7ポイント）とそれぞれ低下。消費者による自由記述回答では、物価、とりわけガソリン価格の高騰に関する懸念が過去最高水準に達したほか、イラン紛争を巡る言及も依然として高水準だったとコンファレンスボードは指摘。

小売売上高の推移



（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

消費者信頼感指数の推移

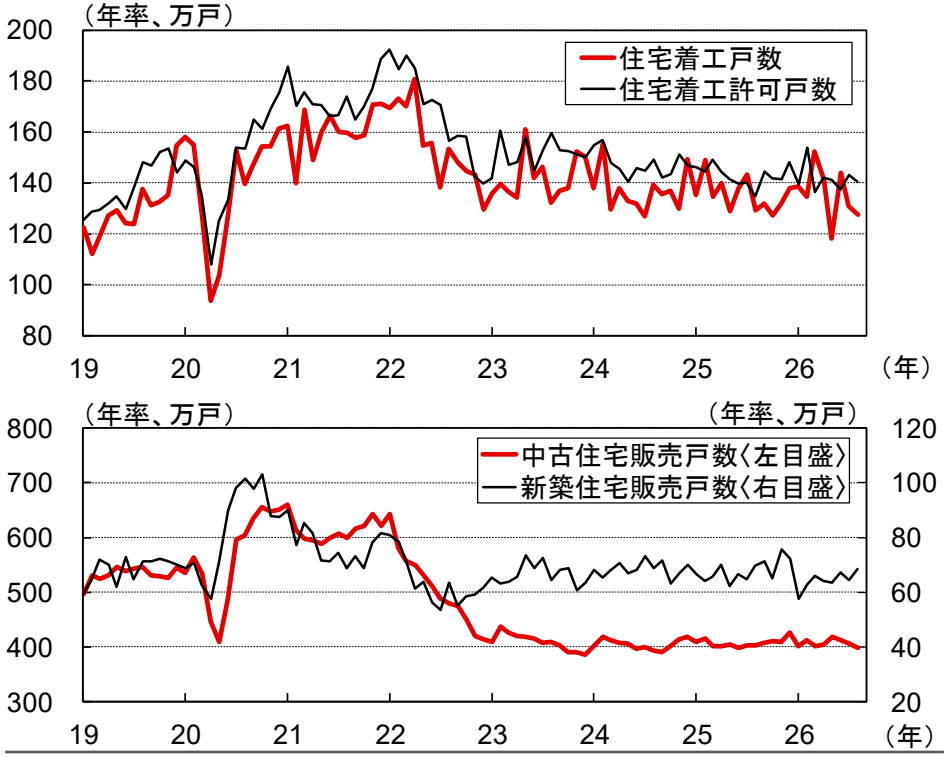


（資料）コンファレンスボード、ミシガン大学統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

6. 住宅

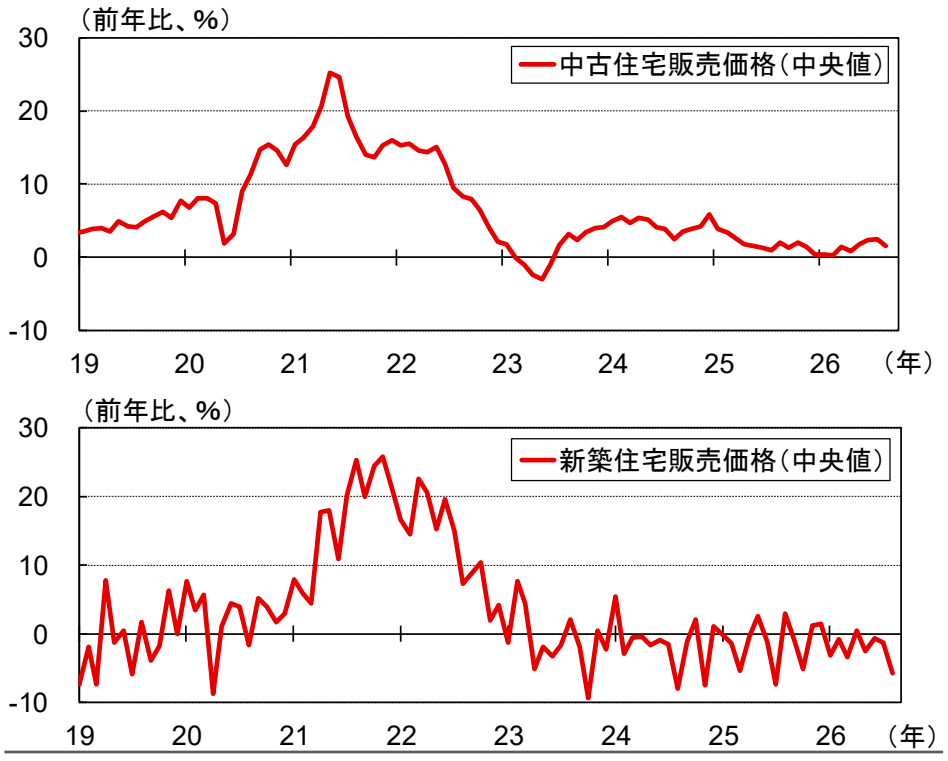
- 8月の住宅着工戸数は前月比▲2.6%（7月：同▲9.0%）の年率127.5万戸（季節調整値）と2ヵ月連続で減少。内訳をみると、一戸建住宅は同＋7.6%（7月：同▲5.4%）の91.8万戸と増加した一方、変動の大きい集合住宅（5世帯以上）は同▲22.5%（7月：同▲14.5%）の年率34.4万戸と減少。先行指標である住宅着工許可戸数は同▲2.1%（7月：同＋4.3%）の年率140.3万戸（季節調整値）と減少。
- 8月の中古住宅販売戸数は前月比▲2.0%の年率398万戸（季節調整値）と3ヵ月連続で減少した一方、新築住宅販売戸数は同＋6.4%の年率68.4万戸（季節調整値）と増加し、8ヵ月ぶりの高水準に。住宅ローン金利が高止まりする中、販売業者による値下げや販売促進策が需要を下支えしたとみられる。
- 8月の中古住宅販売価格（中央値）は429,100ドル、前年比＋1.6%と前月（7月：同＋2.5%）から伸びが鈍化、新築住宅販売価格（中央値）は393,700ドル、同▲5.8%（7月：同▲1.3%）と大幅に下落。

住宅着工戸数・許可戸数・住宅市場指数・住宅販売戸数の推移



（資料）米国商務省、全米不動産業協会統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

住宅販売価格の推移



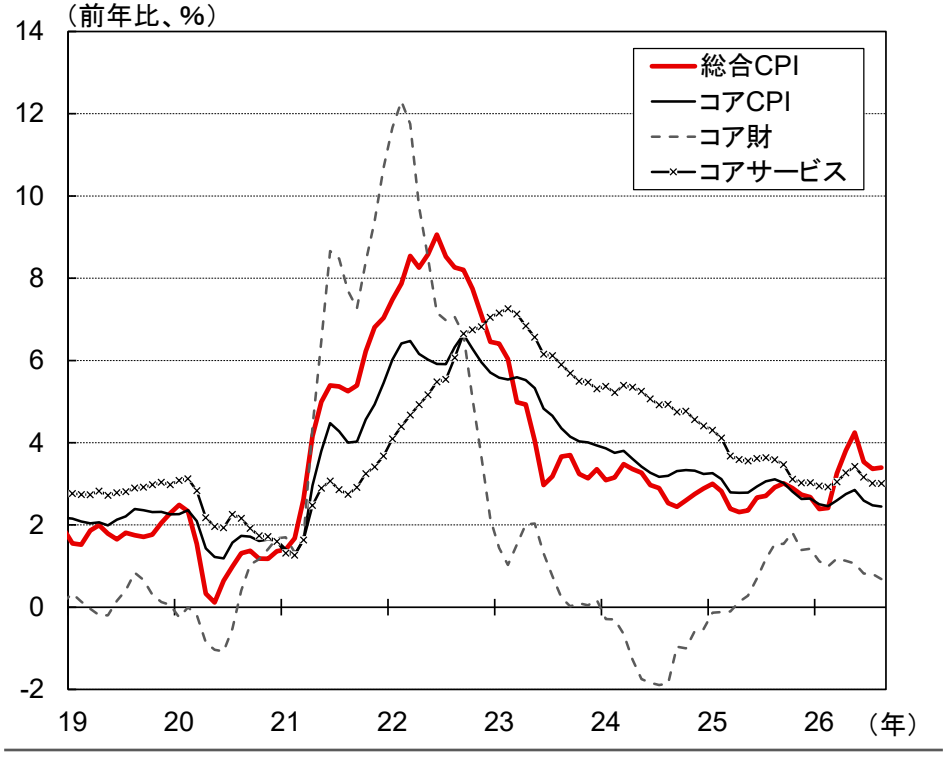
（資料）全米不動産業協会、米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

MUFG

7. 物価 ①

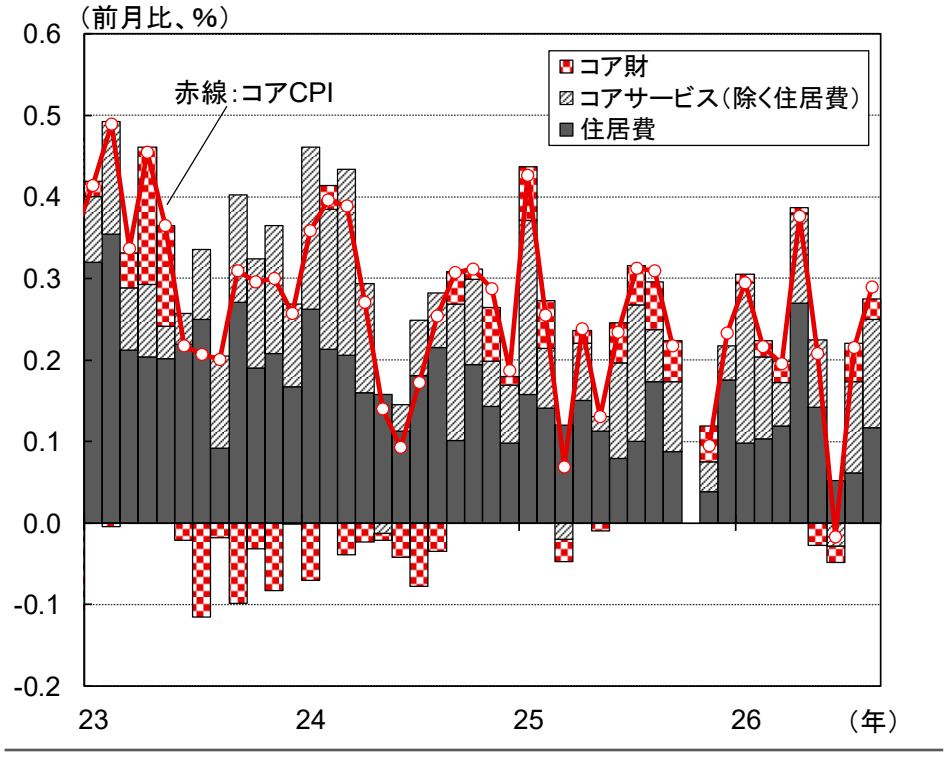
- 中東情勢の長期化懸念などを背景とした原油価格上昇を受けてエネルギー関連を中心に高止まり。
- 8月のCPIは、総合指数が前年比＋3.4%と前月から伸びは横這い、食品とエネルギーを除いたコアCPIは同＋2.4%（7月：同＋2.5%）と減速。品目別にみると、「エネルギー」は同＋16.3%（7月：同＋14.7%）と2ヵ月ぶりに加速した一方、「食品」は同＋2.7%（7月：同＋3.0%）と減速。また、コア指数の構成項目のうち、「輸送費」は同＋2.4%（7月：同＋2.9%）と4ヵ月連続で減速したほか、「住居費」も同＋3.0%（7月：同＋3.2%）と減速。「中古車」は同▲2.3%（7月：同▲1.9%）と2ヵ月連続で下落幅が拡大。
- 前月比でみると、コアCPIは前月比＋0.3%（7月：同＋0.2%）と伸びが加速。内訳では、コア財が同＋0.1%（7月：同＋0.2%）と減速した一方、コアサービスは同＋0.3%（7月：同＋0.2%）と加速。コアサービスのうち、ウェイトの大きい住居費は同＋0.3%（7月：同＋0.1%）と2ヵ月連続で加速。

消費者物価指数の推移



（資料）米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

コアCPIの内訳の推移

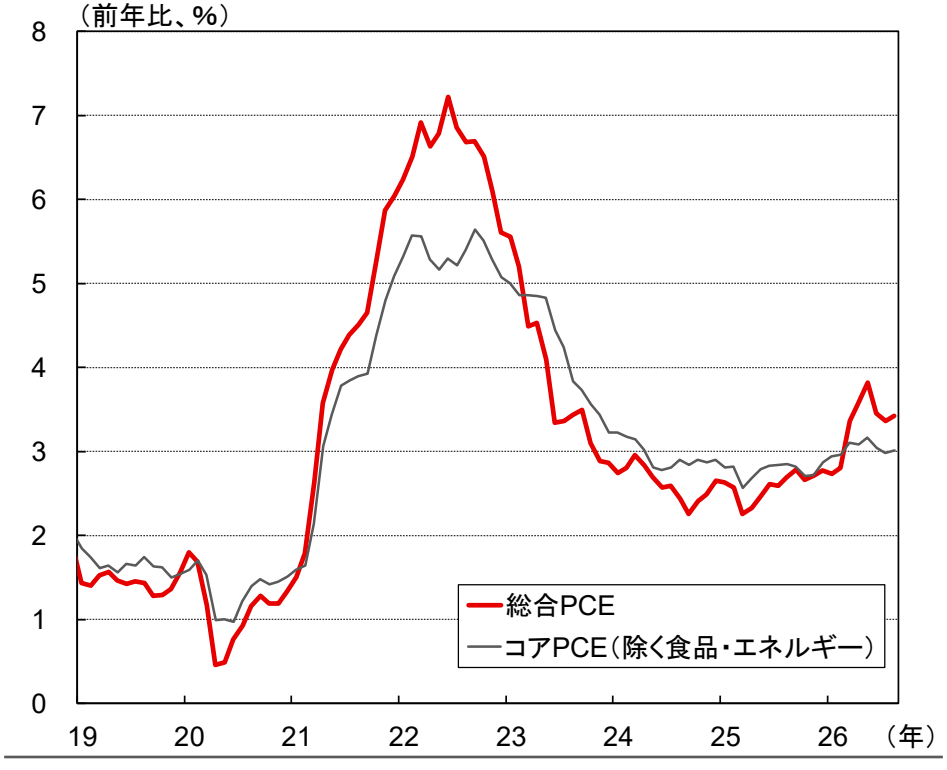


（資料）米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

8. 物価 ②

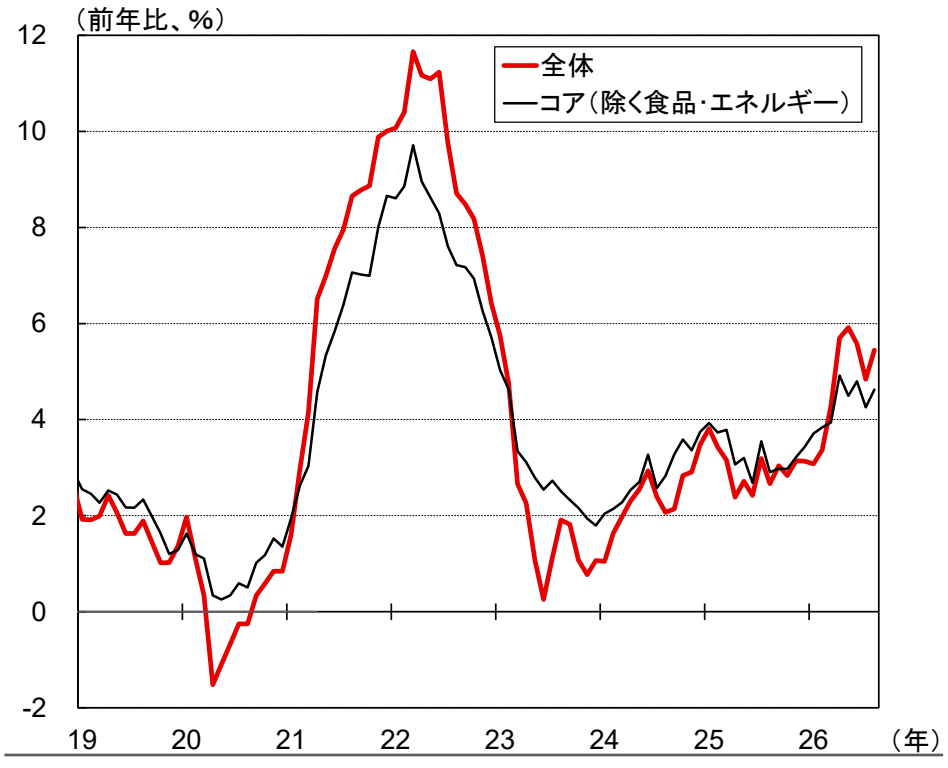
- 8月の個人消費支出（PCE）は前年比＋3.4%、食品とエネルギーを除いたコアPCEは同＋3.0%とそれぞれ前月から伸びは横這い。なお、今回公表分では年次改定が実施され、過去分のPCEも下方修正された。
- 8月の生産者物価指数（PPI）は前年比＋5.4%（7月：同＋4.8%）、食品とエネルギーを除いたコアPPIは同＋4.6%（7月：同＋4.3%）とそれぞれ伸びが加速。内訳をみると、「財」は同＋7.7%（7月：同＋6.8%）、うち「エネルギー」は同＋24.4%（7月：同＋19.4%）と大幅に加速。また、「サービス」も同＋4.5%（7月：同＋4.0%）と加速。

個人消費支出の推移



（資料）より三菱UFJ銀行経済調査室作成

生産者物価指数の推移



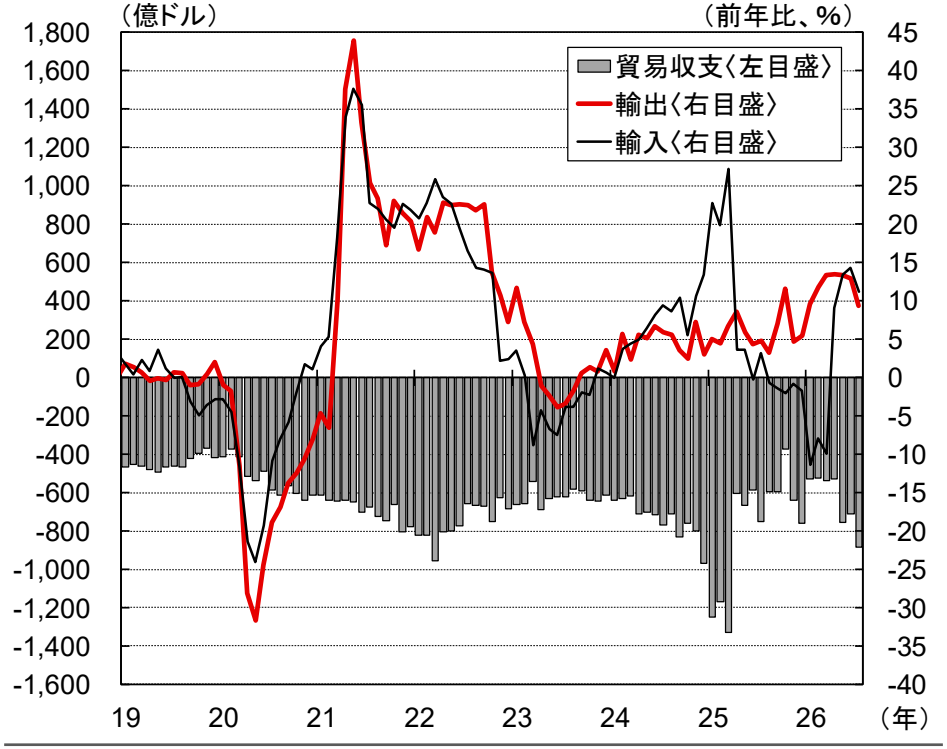
（資料）米国労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

MUFG

9. 国際収支

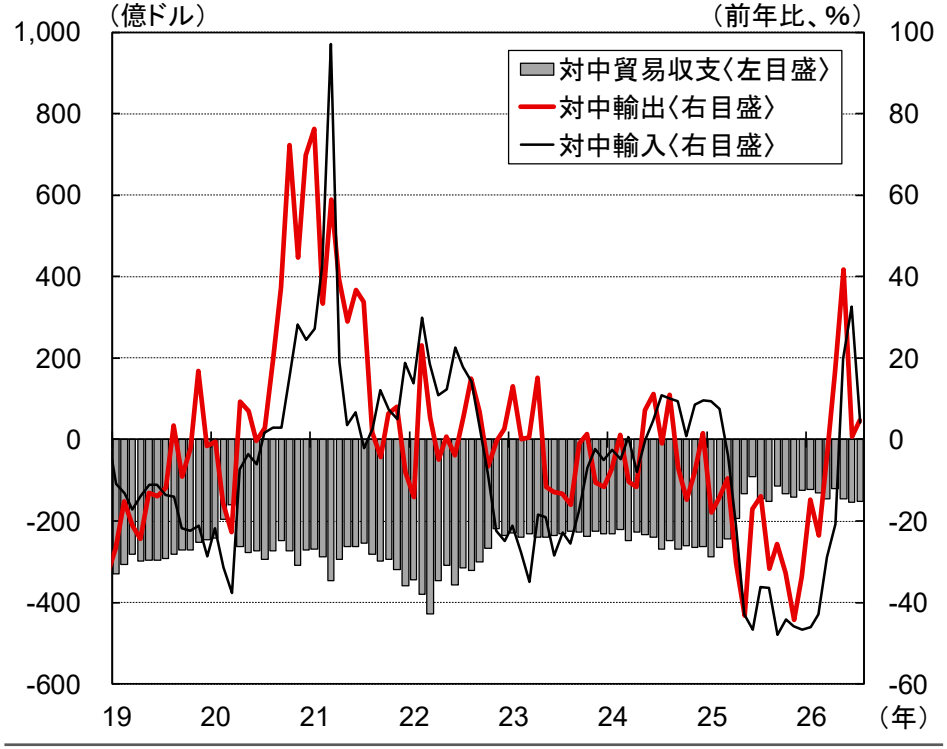
- 7月の貿易収支（財・サービス）は886億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比＋24.4％（同＋174億ドル）と拡大。輸出は同▲2.1％（同▲66億ドル）と減少した一方、輸入は同＋2.8％（同＋108億ドル）と増加。前年比でみると、輸出は＋9.3％、輸入は＋11.2％とそれぞれ増加。
- 財の貿易収支を国・地域別でみると、中国は7月に152億ドルの赤字となり、赤字幅は前月比▲0.7％（同▲1億ドル）と小幅縮小。対中輸出（財）は同＋3.0％（同＋3億ドル）、対中輸入は同＋0.8％（同＋2億ドル）とそれぞれ増加。前年比でみると、対中輸出（財）は＋4.8％、対中輸入（財）は＋4.3％。
- 対メキシコの貿易収支の赤字幅は275億ドル（前月比＋72億ドル）と拡大したほか、対台湾は181億ドル（同＋32億ドル）、対日本は42億ドル（同＋9億ドル）と拡大。一方、対カナダは32億ドル（同▲37億ドル）、対EUは89億ドル（同▲20億ドル）と縮小。

貿易収支と輸出入（財・サービス）の推移



（注）国際収支ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

対中貿易収支と対中輸出入（財）の推移

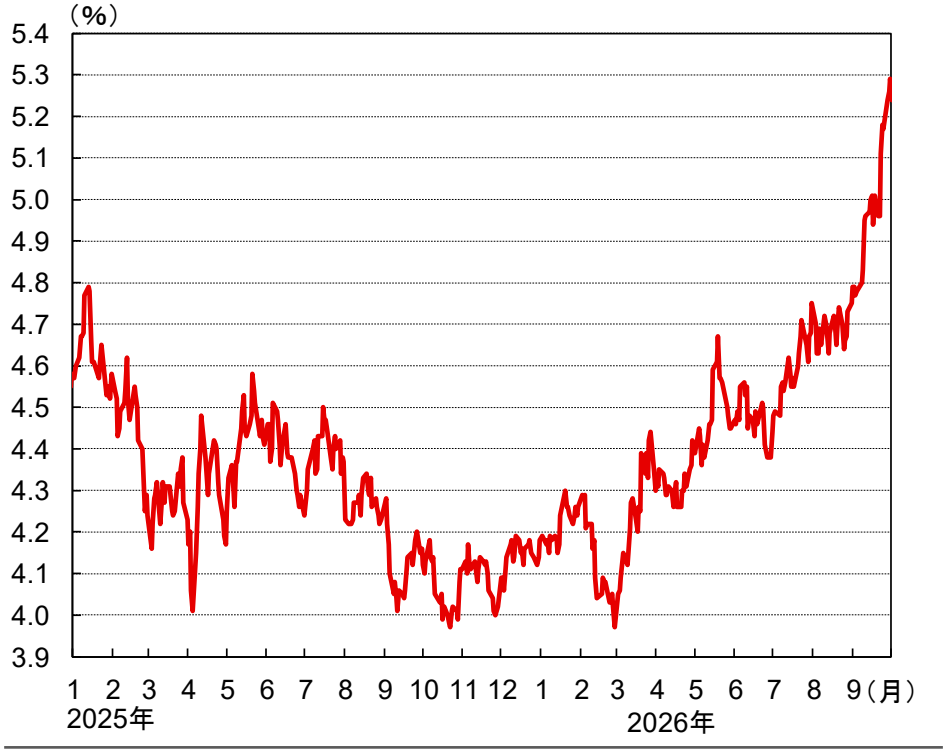


（注）通関ベース。貿易収支は季節調整後。輸出入の前年比も季節調整後の数値を元に算出。
（資料）米国商務省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

10. 金融市場動向

- 9月FOMCでは、0.25%ポイントの利上げを全会一致で決定（誘導目標：3.75～4.0%）。FOMC参加者の政策金利見通し（中央値）では、年内もう1回の利上げと来年の政策金利の据え置きが示唆された。
- 10年物国債利回りは、中東情勢を背景としたエネルギー価格の高止まりによるインフレ懸念などから、FRBによる追加利上げ期待が高まり、大幅に上昇。
- S&P500は、中東情勢への警戒や原油高、金利上昇が重しとなる一方、AI関連株への根強い投資需要が下支えとなり、9月は一進一退の展開となった。

10年物国債利回りの推移



（資料）Macrobondより三菱UFJ銀行経済調査室作成

S&P500種株価指数の推移



（資料）S&Pより三菱UFJ銀行経済調査室作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。
ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。
内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。

会社名：株式会社三菱UFJ銀行　経済調査室（ニューヨーク）
1251 Avenue of the Americas, New York, NY 10020, USA

照会先：ウォルショー 瞳　e-mail：hwalshaw@us.mufg.jp